



# きんたろう倶楽部通信

8号

2006年4月23日  
きんたろう倶楽部結成  
2009年8月の会員数:784名

人びとが暮らすために必要な森づくり。子どもたちがのびのび育つために必要な森づくり。それにはあなたの力が必要です。自然の恵み豊かな富山の里山を、いっしょに創りませんか。

2010年3月15日発行  
きんたろう倶楽部事務局  
〒930-0151 富山市古沢254番地  
富山市ファミリーパーク内  
TEL&FAX: 076-434-1316  
URL: http://kintaroclub.net  
E-mail: info@kintaroclub.net



私の家は、田んぼはそれ程ないが山があり、おじいちゃんから「お前が一日歩いても山の境界から境界へいけないよ」と言われたもので、子どもの頃は家族総出で山の手入れをし、杉の下枝は大人が下ろした子どもが葉っぱを拾う。こうした枝や葉を風呂を沸かすのに使ったものです。こうした作業は家族総出で行い、家を建てたこともあったのですが、持家率は100%でした。

## ◆ 里山の生活 ◆

子どもたちの発表はとても素晴らしいと涙ぐんでしまった。学べば大人の方だと思いき、自分たちがこれまでやってきた事の「責任」を感じ「悪かった」という思いをした。子どもたちは、本当に真剣に未来のことを考えており、素晴らしい活動もなされていることを知りました。

## 第二回 森林と人 シンポジウム 「はじめの一步」をはじめよう

た。子どもの頃、木材工場が村々にあり伐った木を製材し住宅用にし、それが村の生活を支え、また植樹を繰り返しました。今でも同窓会で集まっても誰も花粉症がない。杉の中で遊んでいたからでしょうね。

富山大学に入ると、炭の値段がめっちゃめちゃ高い。炭は自宅の裏山で焼いており、自分も時々手伝っていた。それを売ったら1年分くらいの学費は出た。しかし翌年山の炭は、街の炭と違って煙が出

## ◆ 森へ恩返し ◆

45年ほど前、フィリピンのミンダナオ島へラワン材を買う仕事で行きました。百年育てたラワン材は、植樹の効かない木ですが、みんな日本へ伐って持っていく。その事に罪悪感を感じ、本当にこれ

## 「未来を担う子供たちへのメッセージ」 〜自然の大切さをどう伝えるか〜

基調講演 (株)インテック 代表取締役会長 中尾 哲雄



後にバナナの木、パーム油の木を植樹するお手伝いをした。最近ではフィリピンからパーム油を仕入れて石鹸を作ったり、その残りかすを活用してバイオエネルギーにしているという事を知り感激をした。百年のラワンを日本が伐ってしまったが、我々はそういう形でも恩返しができる少しはほっとした。また、経済同友会ではドングリを自分で鉢に植えて苗を植樹する活動を10年も続けており木を植える意味もあるが、親子揃って、高度成長時代にあまり家に帰らなかつたお父さんたちが子どもと一緒にドングリを拾っていることに感激している。私も、子どもの頃は母や父と一緒に田んぼや畑で働いた。あの時の事がなかったら、今

日の私はないのではないかと思えます。大山町のなかに廢村の山がいっぱいあって足立原(貫)先生が、そこで哲学の講義をしたり、昼は農作業をし、「人と土の大学」というのをやっていた。その活動の中から、この地に「哲学をベースにした大学を作ろう」という事で、富山国際大を作り、またインテックの研修所や職芸学院、北陸電力の研修所もできた。森は大事だが人間がいないなら森は大変だが散布してあり森の下草はいいかも死んだ。足立原先生は反対運動

## ◆ 唱歌とふるさと ◆

「夕焼け小焼け」「春の小川」、ウサギ追いかの山の「ふるさと」といった唱歌の歌詞が、高野辰之という人によって作詞されていることを知り長野県飯山市へ行ってみると、なぜ素晴らしい歌が作られるかわかりました。そこは千曲川に野沢菜の花が咲き、日本のふるさとの原形のような場所に残された自然は素晴らしく観光資源にもなっていて、特にプナ林の山に60キロもの遊歩道を作っており、私も資金集めに協力し、自分も歩いた感想はなだらかで、とても癒される道でした。IT産業の中で働いているが、気付いたらこんなにも森と関わってきたかと気づかされるを得なかったのかと気づかされる。高校に通学する時に遠回りだけど雑木林を通り、その雑木林はみんな覚えてしまった。季節が変わると、枯れた木から新芽が出、また秋になると落ちていく。自然の営みは、我々の情操教育に、極めて大切なことだと思ふ。

## 天湖森里山整備 ボランティア

富山市立檜原中学校 山下 景行

僕は天湖森ボランティアに参加して自然とふれあい、新しい発見をすることができました。僕は草むしりの担当で最初は大変で疲れると思っていました。実際に行ってみると、いろいろな種類の草や、きれいな花もみることができて、とても楽しかったです。草むしりの作業が終わった後に、ネイチャーゲームというものを行いました。まずは、一つ一つ違った種類の葉を集めるゲームは今までに行った事なかったゲームで、とてもおもしろかったです。次に目を閉じ耳を澄まして、自然の音を感じながらゲームを行いました。普段はなかなか気が付かない音も目を閉じ耳を澄まして、鳥の音や風の音など、いろいろな音を感じることができました。

## 富山市立檜原中学校 坂井 勝己

僕は天湖森ボランティアで、草や木の枝を伐採して道を作っていく作業の班になりました。まず最初に、道を作る現場に行きました。



草や木がたくさん生えたパークゴルフ場の近くの木と木の間にはロープが張ってあり、それに沿って周りの草や木を伐採していきました。伐採に使う道具を最初はうまく使えませんが、使っていくうちに、少しずつ慣れていきました。同じ作業を行うもう一つの班が、向かい側から伐採していき、途中で2つの班が合流すると聞きました。僕は、木がなかなか切れず大変でしたが、少しずつ前へ進んでいきました。伐採していくうちに、もう一つの班の音が聞こえてきたので、もう少しだと思いつつ張りました。そして、ついに2つの班が合流しました。その時、頑張って作った道がやっとつながったのだと思いました。

## ▼ 編集後記

11月7日(土)に無事開所式を終えた「きんたろうの森」。これは6月末に整備するの森。チップを堆肥化させる実証実験用の竹林整備跡地です。開けた竹の林床をどうやって以前は茶畑として使われていた段々畑の様子。以前に、しばらく上へ向かって登ってみると東側斜面から立山連峰が望める小高い丘に辿り着きました! これこそポイントと見えて立山連峰を望める展望広場となるよう整備し、生態系豊かな里山として利活用すれば人々が集う空間になるのでは? と森づくり作業部に提案し賛同を得ることができました。22年度から少しずつ森として整備するとともに持続可能な環境教育の場として発展できたら! と夢は広がりますが、す。といっても一人は勿論、少人数でもスムーズには捗りません。そんな夢をたくさん持ち寄って将来の子どもたちも楽しく集える「きんたろうの森」を創り出しましょう!

## ▼ 今後の活動予定

- 4月17日(土) 稲代 国有林内竹林整備
- 4月24日(土) 第10回呉羽丘陵竹林整備
- 4月25日(日) 森づくりボランティア交流会
- 5月16日(日) めひの野園竹林整備
- 5月28日(金) 第11回とやま森の祭典 など



## ♪ 22年度のついで

東山保育所 いなさき ゆうすけ  
ほくほ、ころりんのもりにどんぐりをうつにいききました。きんた

## ♪ 22年度のついで

東山保育所 あべ しおり

ほくたちがうえたどんぐりのきがおおきくなって、どんぐりのみがたくさんなつてほしです。

